

【事業報告】第2回全体勉強会

【趣旨】

本年の4月から南アルプストンネルの本格的工事が着工され、2027年開業に向けてリニア建設が始動しました。一方、飯田市においても「リニア駅周辺整備基本計画」が策定され、年内にも、「リニア飯田駅」の概要が具体的に提示される予定です。しかし、10年後の開業を控え、この地域がどうなるのか、どうする必要があるのか、まだまだ地域としての考えがまとまっているとは言えない状況です。地域に住むわれわれが、どのような地域を目指すのか、明確な理念や考えを持ち、その実現に向けて今から努力していくことが、リニアを活かしたまちづくりにつながると考えています。今回の勉強会では、魅力ある地域(住む人にとっても、訪れる人にとっても)を考える際のポイントである、インフラ整備特に道路交通ネットワークの整備と拠点連携について考えてみたいと思います。また、長野県の考え方を聞き、広域的にリニア新幹線をどのようにとらえるのかを勉強するよい機会でもあると考えます。

【開催日時】 平成29年10月20日 金曜日 18時30分から20時30分

【開催場所】 シルクホテル飯田市錦町1-10 0265-23-8383

【参加人数】 55名

【内容報告】

・講師による講演会

講師 水間 武樹 氏長野県リニア推進整備局局長

演題 「長野県のリニアを生かした地域づくり

構想の現状と今後の課題」

※演題に沿いパワーポイント、紙資料を用いて講演いただきました。

- 1 首都圏の企業から見たリニア長野県駅についての意向を説明いただいた。
- 2 リニア中央新幹線の意義
 - ・東海道新幹線の経年劣化、大規模災害への備え対策として大動脈の二重化を図ることにより、巨大都市圏（スーパーメガリジェーション）が誕生→スーパーメガリジェーションにうもれない地域づくりが必要である。
 - ・ITが進むほど **face to face** が必要でスーパーメガリジェーション構想検討委員会ではその新たな価値創造の拡大について検討されており、飯田にもそのことが使える。
- 3 長野県及び伊那谷地域の概況
 - ・下伊那地域、上伊那地域の特性と課題について説明いただく。
 - ・伊那谷地域の特性について産業・観光・移住等の観点で説明いただく。

- 4 リニアが長野県に及ぼすインパクト
 - ・リニアによる時短効果、経済波及効果
 - ・リニア整備がもたらす交流人口の増加のチャンスである。
- 5 リニア開通に向けた取組
 - ・リニア駅周辺整備、リニア工事の概況、地域振興の推進等について説明いただく。
- 6 長野県における主な課題
 - ・長野県リニア活用基本構想&リニアバレー構想＝伊那谷が目指す姿の説明
 - ・現状の目標：リニアバレー構想の実現（具体化）
 - ①リニア駅からの交通体系（二次交通）
 - ②リニア駅を中心としたまちづくり
 - ③地域多様性（リージョナルダイバーシティ）の発揮
 - その地域・土地「ならでは」や「らしさ」の追求と再構築
 - 例）「秘境駅」として認知度の高いJR飯田線を観光資源としてPRできないか。
 - ④三県連携（隣接県との連携）の推進